

立ち読み版

特集
1

2020年

診断士 パラレルキャリア事情

【監修】

多郷 満彦／塚本 恭之

音喜多 健／小口 真和／金島(横山) 加代子

2020年、テレワークの普及やソーシャルディスタンスなど、社会の働き方は一変した。診断士の世界も同じだ。本特集では、自らの特技や特長を生かし、複数の仕事に携わるパラレルキャリア診断士にスポットを当てる。彼らのこれまでの活動や、そこで得られた機会や気づきを探りながら、今後訪れる診断士の新しいビジネススタイルを考える。

- 第 1 章 中小企業診断士とパラレルキャリア
- 第 2 章 パラレルワークのメリットと注意点
- 第 3 章 ベンチャー企業広報×独立診断士
- 第 4 章 会社員×起業家×企業内診断士×母親業
- 第 5 章 パラレルキャリアをどう作るか

特集 1 2020年 診断士パラレルキャリア事情

第 1 章 中小企業診断士とパラレルキャリア

多郷 満彦 中小企業診断士

2020年3月前後を境に、世界は一変しました。それまでヨーロッパやアメリカはもとより、日本でさえ「対岸の火事」のように見ていた新型コロナウイルスの脅威が全世界を襲い、各国が非常事態宣言や外出禁止令などで事態の収束を目指しました。しかし、本稿を書いている2020年9月現在、その光明さえ見いだせていません。

混雑時を避けた通勤や在宅勤務など働き方に関わる行動様式は変化し、今後、コロナショックが収束したとしても、以前に戻ることはないでしょう。でも、それはネガティブな要素ばかりではありません。

1 コロナショックがもたらした変化

Zoom等のWeb会議システムが急速に普及し、移動時間なく、全世界の人が集って話し合うことが身近になり、時間的、経済的ハードルは一気に低くなりました。

行動様式だけでなく、雇用形態をはじめ、働き方のルールもますます多様化しています。終身雇用や年功序列など、旧来の雇用システムは限界に達しています。この春に施行された同一労働同一賃金ルールを背景に、これまで主流であった、人に対して仕事を割り当てる「メンバーシップ型」

の雇用から、仕事に対して人を割り当てる「ジョブ型」の雇用への移行が進んでいくと、中小企業診断士のような知的労働力のニーズはより高まると考えられます。

本誌2019年12月号の特集記事「副業・複業時代の企業内診断士」で、統計資料から企業内診断士の現状を紹介しました。その中で「会社との契約」と「時間の余裕がない」ことを理由に、副業（コンサル業務）を行っていない企業内診断士は回答の半数を超えていました（図表1）。

図表1 コンサル業務を行っていない理由 (MA)

No.	コンサル業務を行っていない理由	回答数	構成比 (%)
1	会社との契約上、副業ができないから	350	28.2%
2	会社の仕事に追われ、時間と余裕がないから	286	23.1%
3	機会がないから	255	20.6%
4	資格を自分の仕事に生かしているから	153	12.3%
5	自分の能力不足	144	11.6%
6	関係者の理解不足	15	1.2%
7	その他	37	3.0%
	合計	1,240	100.0%

※MAとはマルチアンサー（複数回答）の略
※2019年12月号掲載以降に数字の更新あり。

続きは雑誌で